

牧野富太郎が愛した花バイカオウレンが鑑賞できる 六甲高山植物園 冬季特別開園

六甲山観光株式会社(本社:神戸市 社長:寺西公彦)が運営する六甲高山植物園は、2023年1月24日(金)から2024年3月15日(金)まで冬季休園となりますが、雪を割って咲く早春の花々を鑑賞いただくため、2024年2月23日(金・祝)から3月10日(日)までの土日祝に「冬季特別開園」を実施します。

この時期の六甲山はまだ厳しい冬の寒さに包まれていますが、約50㎡と日本有数の植栽面積を誇るバイカオウレンが凜と咲く様子からは、春の息吹を感じることができます。バイカオウレンは、牧野富太郎博士が生涯、愛した花として知られています。



◆バイカオウレン(キンポウゲ科)

林下に生育する高さ4~15cmの多年草。当園では、早春に最も早く開花する花で、梅に似た花と端正な五角形の常緑の葉が特徴です。牧野富太郎博士が幼少時、自宅すぐ裏の金峰神社で見ながら生涯愛した花として知られています。

【日時】 2024年2月23日(金・祝)~3月10日(日)の土日祝

10:00~16:00 (入園受付は15:30まで) ※西入口のみ開門

※荒天中止。開花状況等、詳細はホームページで発表します。[URL]<https://www.rokkosan.com/hana/>

【料金】 大人800円、小人400円 ※特別割引料金で入園していただけます。

【催し】 早春の花を巡る、花のガイド(10:30~/13:00~)

※3月9日(土)は「ぶらぶら園内ガイド」でおなじみの、沖和行先生による特別ガイドを開催。

【特典】 ①2月23日(金・祝)のみ、先着100名様にキレンゲショウマの種プレゼント

②入園回数券(8回券)を特別割引価格で販売 ※特別割引価格:3,920円→3,200円720円お得

③六甲高山植物園オリジナルカレンダープレゼント

◆お問合せ先

六甲高山植物園

TEL:078-891-1247/FAX:078-891-0137

住所:〒657-0101 神戸市灘区六甲山町北六甲4512-150

◆営業概要

【開園期間(2023年)】~11月23日(木・祝)【開園時間】10:00~17:00 (16:30受付終了)

土日祝のみ「ひかりの森~夜の芸術散歩~」17:00~20:00(ナイトパス要)

【入園料】大人(中学生以上)900円/小人(4歳~小学生)450円【駐車場】1,000円

六甲高山植物園冬季特別開園を彩る早春の花



◆セツブンソウ〈キンポウゲ科〉

【花期】2月下旬～3月中旬

まばらな温帯夏緑林の林内や草地に生える小型の多年草。茎は高さ5～15cmになります。5枚の白色の萼片から覗く黄色い花弁はよく目立ち、蜜を出して虫を呼び寄せます。本州の関東地方以西に分布する日本の特産種で、石灰地域によく見られる傾向にあります。当園は約20,000球のセツブンソウを植栽しています。



◆フクジュソウ〈キンポウゲ科〉

【花期】2月下旬～4月上旬

林の周縁部等に生える多年草です。花の咲いている時期は約15cm程度の高さですが、花後は根茎から多数のひげ根を出し、30cm程に達します。金色に咲く花はその姿からおめでたい花としてなじみ深く、「福寿草」と記されます。パラボラ型の花で太陽光を中心に集め、その熱で寒い時期に飛ぶ昆虫を呼んでいると考えられています。



◆ザゼンソウ〈サトイモ科〉

【花期】3月上旬～下旬

雪が溶けると間もなく、濃い茶色の仏炎苞(ぶつえんほう)がむっくりと顔を出します。その姿が、達磨大師が座禅を組んでいるように見えるため、「ザゼンソウ」と和名が付けられ、別名「ダルマソウ」とも呼ばれます。まだ雪の残る中で咲くこともある本種は、開花直後に自ら発熱し、仏炎苞の中は20℃前後になることが知られています。ミズバショウと同じ仲間、葉は花が終わるころに伸びてきます。



◆ヘレボルス・チベタヌス〈キンポウゲ科〉

【花期】3月中旬～4月上旬

「幻のクリスマスローズ」と呼ばれ、クリスマスローズの仲間の中で唯一、アジアに分布しています。ジャイアントパンダやハンカチノキを発見したプラントハンターのアルマン・ダヴィッド神父が1869年に中国の四川省付近で採集しており、当時その近辺をチベットと呼んでいたことから、学名に「チベタヌス」と入っています。当植物園では自生地に近い環境で植栽しています。